

森林と土壌の力で 地球温暖化をどこまで止められるか

気候変動を抑制するための2050年ネット・ゼロの実現が国際的な目標となっている。ネット・ゼロは、温室効果ガスの排出量と森林や海洋等での吸収量が釣り合った状態である。その実現には、省エネ等による排出量の削減とともに植林等による吸収量の増大が必要である。途上国の経済

発展に伴い排出量の削減は進んでおらず、吸収源の強化が求められている。本シンポジウムでは、吸収源としての森林と土壌の現状を共有するとともに、2050年ネット・ゼロの実現に向けて、今、取り得る手段としての森林と土壌の吸収源機能の強化について議論する機会としたい。

SAT
3/28
2026年
13:00~17:30

(会場)

東京大学農学部
弥生講堂
(オンラインでも同時開催)

対面参加の方は
そのまま会場まで

世界の森林の炭素吸収力 —土壌を含む森林炭素のこれまでとこれから

橋本 昌司

(森林研究・整備機構 森林総合研究所 チーム長/東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授)

地球温暖化の進行が森林と 土壌の吸収源機能に与える影響

小嵐 淳

(日本原子力研究開発機構 原子力科学研究センター 研究主席)

熱帯林の吸収源としての役割と森林再生

田中 憲蔵

(国際農林水産業研究センター 主任研究員)

森林資源の長期利用・循環利用による 排出削減・吸収源強化

加用 千裕

(東京農工大学大学院グローバルイノベーション研究院 教授)

農地における土壌への炭素貯留と 温室効果ガスの排出削減

白戸 康人

(農研機構 農業環境研究部門 研究領域長)

総合討論

司会進行: 丹下 健

((公財)日本農学会 会長/東京大学 特命教授)

主催:(公財)農学会、日本農学アカデミー

後援:東京大学大学院農学生命科学研究科 問合せ先: zaidan@nougakkai.or.jp

申し込みフォーム

